

2023年11月8日

建設労務安全研究会

全国労研交流会議懇親会の挨拶

ただいまご紹介いただきました、東京労研の理事長の細谷でございます。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の影響により、全国労研交流会議懇親会が、かくも盛大に4年ぶりに開催できたことは誠に嬉しい次第でございます。

公務御多忙中、日頃よりお世話になっております厚生労働省 小林安全衛生部長、国土交通省 時苗（まかなえ）大臣官房審議官、はじめ多くの来賓の方々にご臨席をいただき心よりお礼申し上げます。

東京労研は、昭和二十一年十月に本研究会の前身である労務懇談会が発足してから今年で七十七周年を迎えます。感ずるとともに、ますますの発展を目指し、十年、二十年先を見据え、諸先輩方の残された功績を継承し、駆伝でたとえれば、襷を受け継ぎ、微力なが

ら、次の世代へと繋げて行きたいと考えます。

今年度、危険有害な作業を行う個人事業者等への保護措置の義務化、有機溶剤中毒防止予防規則の一部を改正する省令、安全衛生対策項目確認表の普及、職人基本法改訂、デジタル技術を使った遠隔巡視の検討、CCUSの更なる普及に向けた取り組み等、新たな施策への検討会等に当会の理事が委員やメンバーとして参画し、建設業界の発展に寄与する活動に取り組んでおり、当会は、建設業界において一定の役割を果たしつつあると認識しております。

私の個人的考えかもしれませんが、現場の安全は放っておくと劣化します。

安全は、たまたまある時点での「状態」に過ぎず、絶えず変化していきます。

過去の苦い教訓からしっかりと築き上げたはずの安全も、何もしないで放っておくと、どんどん劣化し

ていきます。なぜなら、体は楽を覚え、意識はマンネリ化し、記憶は風化していくものだからです。安全はまさに、「不断の努力によって築き上げられる」ものだと言えます。

ある新聞で書いてありました『安全は「保つ」ものではなく「つくる」ものである』という言葉が印象に残っています。すでにある安全を守るのではなく、自分たちで作ることが大切だということです。

人間の行動による災害（不安全行動、ヒューマンエラー）が非常に多く、繰り返し発生しています。災害が発生すると、その対策として挙げられるのが「再教育・再周知」であり、人そのものに着目した対策が必要とされ、「継続的な安全教育」による感性・意識の向上が重要視されています。

こうしたことから、人そのものに着目した教育に活用できる書籍の編纂、講演を昨年度から実施してまいりました。また、行政機関及び関係団体等からの情報収集と会員への提供等により、会員の教育、情報、管

理水準のレベルアップが図れるよう推進してきました。

今後、会員各社、関係団体の皆様のお力をお借りし、行政等との連携の下、建設産業、会員各社に貢献できる活動をこれからも行ってまいります。

ここにお集まりの会員各社が関係団体の皆様のお力をお借りし、行政・発注者との連携の下、一体となつて、安全衛生理念にある「働く者一人ひとりの安全の確保と健康の増進」「快適な職場環境の確立」を図る活動をこれからも行っていききたいと考えます。

最後に

本日までご出席の皆様のご発展とご健勝並びに各社の無事故・無災害を祈念申し上げ、開式の挨拶とさせていただきます。